

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

3



■シリーズ「学校・園③」

◎卒業式に込める思い

下松市立久保小学校 校長 大田 典子

萩市立萩西中学校 校長 内田 宏

◎たびだち

下関市立阿川小学校 6年 林 大輝

下関市立阿川小学校 保護者 林 弘子

岩国市立本郷中学校 3年 宮本 陸人

岩国市立本郷中学校 保護者 宮本さおり

◎さよならわが母校

美祢市立別府小学校 6年 篠田 幸希

美祢市立嘉万小学校 6年 原川 花依

萩市立木間小学校 6年 山野 悠稀

萩市立木間中学校 3年 堂園 聡仁

■ご案内

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoik.or.jp> E-mail ykoyoik@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：井上 洋／編集長：山本晃久

平成28年度 第69回山口県学校美術展 推奨作品

「みつばち」

山口県立豊浦総合支援学校 中学部3年生 (受賞時) 牧 風紗

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち



心を込めて

笑顔で 感謝いたします

「ありがとうございました」



下松市立久保小学校

校長 大田 典子

第百三十三回目の卒業式に四十五名の児童が巣立つ。歴史と伝統に育まれ、地域の懐に抱かれた本校で、教諭として五年、校長として三年勤務させていただくという光栄な機会を得た。子どもたちのために、どんなに世の中が大きく変わろうとも、そして、人工知能に仕事が取って代わられようとも、人間として大切にしたいことを最後の式辞に込めたい。

多くの恩愛に感謝の気持ちを

久保小学校では、総合的な学習の時間や教科等に多くのゲストティーチャーを招いて授業を展開している。その方々に対して、児童は毎回礼状をしたためているのだが、それには、学んだことに対してだけでなく、その方々とのふれあいで感じたことや、お世話になってありがたいたいという気持ちがいっぱいと綴られている。

どこでだったか、「今日もおてんとうさまを拝むことができてありがたい」とおばあさんが語るのを聞いたことがある。当たり前のことに感謝する場面である。今日一日、



平和でいつもの生活が送れることにさえも、感謝の気持ちをもちたいと強く感じた平成二十九年であった。どんなことに対しても感謝の気持ちをもつこと。できれば、実践できる行動として「ありがとうございます」ということばが、自分の口から自然について出るような人になってほしい。

笑顔と出会いを大切に

一昨年、本校にリオパラリンピック銀メダリストの道下美里さんがおみえになった。銀メダルを獲得された偉業もさることながら、終始たたえた彼女の笑顔の素晴らしさに魅了されてしまった。華奢な彼女が、その場にいる全員を優しく温かさで包み込んだかのような大きな存在だった。

茶道の世界に「一期一会」ということばがある。一度の出会いを大切にすることを説いたことばである。その人との出会いが一生のうちに一度しかないことだとしたら、その出会いはとても貴重で大切にしたいと思う。道下さんが我々に伝えてくださった「笑顔」で接することが出会いを大切に一番の近道かもしれない。

平成二十九年度の久保小学校チャレンジ目標「目をあわせ につこりあいさつ だれにでも」にもその精神が盛り込まれている。卒業しても是非このチャレンジ目標を実践し続けてほしい。

命を大切にすることは時間を大切にすること

この世に生を受けたことは、奇跡に近いということを知る。今ここに存在するのは、先祖代々からの命のバトンを預かっただけであり、次の世代にそのバトンを渡す使命もあると思うと、命の重さとその責任の重大さを強く感じる。

ここで、故日野原重明先生のことばを改めてかみしめてみたい。

「命は、目には見えない。時間も見えないが、時間を使って活動している。時間を使っていることが生きている証拠。時間の中に命があるのだ」と説明された先生。「一度しかない命、どう生きていくのか、どう時間を使っていくのかしつかり考えてほしい、できれば自分だけでなく、他者のために時間が使える人になってほしい」と話された。

久保小の子どもたちのために学校におみえになっては、さまざまなことを教えてくださった地域の方が、とてもよい手本を示してください。その姿を見習いたい。

預かった命、つまり自分の時間を精一杯生かして使っているかを振り返ってみよう。「今日はやりきった！」といえる時間の使い方をしてみよう。できれば、わずかな時間でいいから、誰かのために時間を割いてみよう。それを積み重ねて自分の生き方を確立してほしい。



ここに記したためた言葉は卒業生諸君に贈ると同時に、教員生活を卒業し新たな一歩を踏み出す私自身こそ、謙虚に受け止め実践していきたいのである。

これまでお世話になった方々、お出会いました皆様から感謝申し上げます。「ありがとうございました」。

小さな幸せに気付く豊かな感性を



萩市立萩西中学校
校長 内田 宏

ユネスコ世界遺産の一つである「萩城下町」の中に本校がある。生徒は、地域や観光客の皆さんに元気のよいあいさつを心がけている。あいさつがこだまする活力のある地域をめざして、出会った人に元気のよいあいさつをすることが校風になっている。ある観光客の方が感動され、「見も知らぬ観光客の私に、子どもたちが気持ちのよいあいさつをしてくれた。それも、一人だけではない。来る生徒、来る生徒、みんなが私にあいさつをしてくれた。私はこのような体験をしたことがなかったので、驚くと同時に、うれしくてたまらなかった。是非、この気持ちを、あの学校の生徒に伝えてほしい」とホテルの従業員の方に依頼されとのことであった。これを知って聞き、全校集会や卒業式で披露した。あいさつは、誰にでもできる簡単な言葉だが、人を感動させることができる魔法の言葉だと思ふ。社会で生きていくための基礎・基本の一つだ。地域や観光客の皆さんから寄せられる声も、さらに生徒たちの励みとなり、今日も元気のよいあいさつが響いている。あいさつを通して地域貢献し、ささやかな地域への恩返しになればと思う。

志や夢をもつ

吉田松陰先生の言葉に「志を立てて、もって、万事の源となす」という教えがある。どんな困難に直面しても、「これだけは、やり抜きたい」そう言える夢を



自分らしい夢、自分を生かせる夢を探し続けてほしい。そして、決意を行動に変え、かけがえない自分の人生を、大切に生きてほしい。

小さな幸せに気付く豊かな感性を磨く

卒業式は、生徒の卒業を祝う日であると同時に、家族、地域の皆さんへ感謝する日でもある。卒業できるのは、生徒自身のがんばりもあったが、多くの人の支えがあったからだ。毎日の食事、洗濯された服、ぐっすり眠れる我が家。学校においても、絵本の読み聞かせ、魚の調理実習、乳幼児とのふれあい体験、数学の補充学習、職場体験、職業講話、部活動指導、花生けなど、充実した多様な学びを地域の皆さんに支えていただいている。当たり前と思えるこの毎日の生活は、家族をはじめ地域の方々のおかげである。小さな幸せ

見つけてほしい。

真剣に自分と向き合い、自分の良さを生かして、社会に役立つ生き方がどのようなことができるかということを求め続けてほしい。夢は、困難や試練を乗り越える大きなエネルギーになる



は、身の回りにたくさん隠れている。しかし、物に恵まれた私たちは、この幸せに鈍感になってはいないか。感謝の心をもって、身の回りにたくさん隠れている小さな幸せに気付く豊かな感性を磨き、一つでも多くの幸せを感じてほしい。

東日本大震災のことを忘れない

日本は、自然に恵まれた国だが、同時に、自然災害とも隣り合わせている。東日本大震災から七年経つ今も、仮設住宅で暮らしている方々がおられる。これだけ、科学技術が進んだ日本であっても、復興までの道のりは遠い。一人ひとりが、選んだ道を精一杯歩み、社会人として自立することが、日本を支え、復興を進める大きな力となる。卒業生の活躍を期待している。



チャレンジ



下関市立阿川小学校

六年 林 大輝

ぼくは、この六年間を過ごしてきて阿川小学校を三月に卒業します。入学したときは、友だちができるかどうか不安で、「保育園の時からいっしょだった友だちさえいれればいい」と思っていました。でも、優しい先輩方が遊んでくれたので、みんなと遊ぶことが好きになりました。また、学年が上がるにつれて、運動会や音楽祭などの行事は、みんなと協力しないといけないものだと知りました。ぼくは六年生になって、運動会の団長になりました。団長になった時は、みんなをちゃんとまとめられるか不安でした。それでも仲間といっしょに、協力して支え合いながら、思い出に残る運動会を創り上げることができました。

また、六年生になってチャレンジしたことがあります。それは、市内音楽祭の合唱のピアノ伴奏です。最初、先生に、「ピアノの伴奏をしてみないかと言われた時は、自信がなくて断ってしまいました。でも、教頭先生に、「せっかくのチャンスなのに、挑戦もせずに断るなんてもったいないよ」と言われたので、チャレンジしてみようと思いました。それから三か月間、毎日練習して、本番ではみんなの歌を支える伴奏をすること



ことができました。伴奏を通して、こつこつ努力をすれば、無理だと思っていることでもできるということがわかりました。

中学校は、分からないことだらけで不安でいっぱいですが、小学校の時と同じように、いろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。全校児童数三十二人の阿川小学校ですが、友だちや先生方、おうちの人や地域の皆さんと楽しい小学校生活を送ることができました。みんな仲良しのこの阿川小学校が大好きです。

努力が大事



下関市立阿川小学校

保護者 林 弘子

新しい制服に身を包み、ランドセルを背負って、親子でどきどきしながら校門をくぐった日から、あつという間の六年間でした。

息子の成長を一番感じたのは、六年生になり、音楽祭の伴奏を引き受け、毎日練習していたときでした。ちゃんと弾くことができるようになるか不安の中、春休みから三か月、毎日泣きながら練習していました。練習を始めて一か月経ったある日、「毎日こつこつやれば、できるようになるんやね」と言った息子の一言が忘れられません。私は努力すればできないことはないと思っています。この時に、今がチャンスと思い、何事にもこつこつ努力することは、とても大事なことで伝えました。音楽祭の伴奏を通して、上手く弾けたことよりも、努力することの大切さに気づいてくれたことをうれしく思いました。

入学した時のPTA広報誌の「親から一言に、「挨拶がきちんとできて、自分の思いや意見を相手に伝えられる子になってほしい」と書きました。今、息子の六年間を振り返り、それを通知表のように評価するなら、「まあまあ、できる」でしょうか。中学校に入学するにあたり、



・失敗を恐れず、何事も諦めず努力すること
 ・まわりの状況を見て、自分が今、何をすべきなのかを判断して行動すること
 の二つができるようになってほしいと思っています。

勉強もスポーツも何事も積み重ねが大事。毎日こつこつやっつけていけば、いつか成果がでることを信じて応援しています。そして、息子の未来が、大きく輝いていくことを期待しています。

卒業



「卒業」。何故か悲しい気持ちにさせられる。それなのに僕は「卒業」が楽しみだ。それは、僕の今までの中学校生活での経験によるところが大きい。入学した時は不安で「勉強は難しいのだろうか、部活は厳しいのだろうか……」という事しか考えていなかった。

しかし、そのような不安は一瞬で消えていった。何故なら周りの方々が支えて下さったからだ。それからの生活は、とにかく新鮮で楽しい事だらけだった。

学校生活が一年経った僕は、生徒会書記、次の年で生徒会副会長に挑戦した。僕は、人をまとめる事や話す事は苦手であったが、これらを通じて克服する事ができた。これまでに沢山の事を経験してきたが、生徒会の仕事が一番大きな経験となった。このことを通して、僕は「変化」した。変化することによって面白みを感じてきた。だから「卒業」後の自分が楽しみになのだ。

全校生徒わずか十四名と少ない学校だが、学年関係なく仲が良く、皆が協力して仕事をこなすところが、僕は一番誇れるところだと思う。地域の方々の行事も多かった。雨の日も雪の日も毎朝横断歩道で立って、僕たちを温かく見守っても下さった。ここまで成長できたのも、地域の方々のおかげだ。これからは、大人になる僕たちが支え

岩国市立本郷中学校

三年 宮本 陸人

ていけるよう頑張っていこうと思う。

四月からは高校生だ。新しい生活が始まり、また不安になる事もあるが、ここでも挑戦する事を忘れずに、一生懸命取り組みたい。

僕は、将来医療関係の仕事をしたと思う。少しでも多くの人を笑顔にさせるように頑張りたい。卒業するまでの残りわずかな中学校生活を、充実したものにした。



旅立ち、そして大人へと



岩国市立本郷中学校

保護者 宮本 さおり

もうすぐ、我が子が中学を卒業します。二人目という事もあり、あまり手をかけず育ててきましたが、息子がどんどん成長していく姿を見て、私は同じように育ててきたつもりだったのですが、知らない息子がそこにいる、子育ての難しさを改めて教えてもらったのが中学に入學してからでした。それからは、しっかりと会話をしたり笑ったりと、普通の事ですが、普通にふれあいながら中学生生活を共に過ごしてきました。

私も、本郷中学校の卒業生です。ですから、同じ中学で昔から続く行事に参加したりするのがとても楽しく、自分の歳を忘れてはしゃいだものです。生徒数も年々減少する中で、掛け持ちもたくさんあり、学校行事、部活動、勉強にとよく頑張ったと思います。決して弱音を吐かず、黙々とこなす息子の姿に、私自身も励まされました。

本郷町には「本郷山村留学センター」という施設があり、他県からの友だちと共に学校生活を送っています。まだ幼いながらも、たくさんのお会いと別れも経験しました。これからは息子のこれからの人生の糧になるのではないかと思います。別れはとても辛いですが、「また会お

う！」と約束をし、再会した時には抱き合つて喜ぶ子どもたちを見ると、感慨深く、友だちの大切さなどを改めて知る事ができます。それを、こ本郷で学ぶことができたことを、とても有難く思っています。

春には高校生です。初めて本郷から巣立つことで、不安や戸惑いもあると同時に、たくさんのお会いが待っています。これまで学んだ数々の事を忘れず、地域の方々にも守られていた事も感謝し、大人への階段を一步一步進んでいってほしいと思います。これからの成長を楽しみにしています。

卒業おめでとう！



別府小は続いていく



美祢市立別府小学校
六年 篠田 幸希

長く続いた別府小学校が閉校する、その日が近づいて来ています。ぼくには、この別府小に数え切れないほどの思い出があります。だから、もちろんこの別府小学校がなくなるのはさみしいです。閉校すると聞いたときはあまり思いませんでした、閉校が近づいてくると、だんだんさみしくなってきました。でも、別府小学校はこれで終わりではないと思っています。別府小にいるみんなや卒業生が別府小で学んだことを生かし、これからも成長し続けることで、別府小は続いていくと思っています。

この別府小では、地域の方にお世話になることがたくさんありました。別府小ならではの「梨下村塾」。平成元年から始まり、これまで二十九年間続いてきました。梨を育てるといふ貴重な体験を通して、すばらしい思い出になりました。そして、「神楽舞」という伝統行事もありました。三百年以上続く「別府岩戸神楽舞」を受け継ぎ、壬生神社での奉納では、緊張しましたが、地域の方が温かく見守ってくださったおかげで、安心して舞うことができました。また、地域の達人から学ぶ「別府道場」といふ貴重な学習の場もありました。

別府小学校での活動は、ぼくたち



だけではできないことばかりでした。行事だけではなく、登校の時はぼくたちを温かく見送ってくださり、下校の時は温かく迎えてくださいました。今振り返ってみると、別府小学校は地域の方に支えられていたのだと思います。ぼくは地域の方に感謝の思いでいっぱいです。

ぼくは、もうすぐ中学生になります。小学校とはすることが大きく変わるけど、別府小学校で学んだことを生かしていきたいと思っています。そうすることで、「別府小学校」というぼくの母校は、ぼくの心の中でずっと続いていくのだと思います。

ありがとう さようなら 嘉万小学校



美祢市立嘉万小学校
六年 原川 花依

私の通う嘉万小学校は、青景小学校、八代小学校の二校と統合した歴史ある学校です。三年生以上はマーチングバンド活動に取り組み、行事や地域の祭りで披露して、地域の方に喜んでもらっています。そんな嘉万小学校は三月に閉校します。私は四年生のとき閉校することを知りました。そのときはあまり実感がなく、「さみしい」という思いはありませんでした。その気持ちのまま、嘉万小最後の一年がスタートしました。

五月に行われた運動会では、「歴史に残る最高の運動会」を合言葉に頑張りました。私が副団長を務めた白組は応援歌に校歌を選びました。最後の運動会を、今までとは違う、思い出に残る運動会にしたかったからです。みんなで力を合わせたので総合優勝することができ、とてもうれしかったです。十一月に行われた美祢市音楽祭は、嘉万小マーチングバンドの最後の大舞台でした。四、六、六年生が演奏し、一、二、三年生は演奏に合わせてダンスを踊りました。校歌を演奏し、最後に「ありがとう さようなら 嘉万小学校」とメッセージを出す、たくさんの方が温かい拍手をしてくださりました。学習発表会は、どの学年も「ふるさと」を

テーマにした発表でした。最後の講話で校長先生が、「どの学年も嘉万小への思いが伝わる感動的な発表でした」と涙を流された姿を見て、「閉校する」ということがどういうことなのか少し分かった気がしました。三月で学校はなくなりません。しかし、今までの歴史や思い出はなくなりません。新しい学校になっても、嘉万小の伝統や私たちが頑張ってきたマーチングバンド、あいさつや返事は、これから大切にしていきたいと思っています。卒業する私もみんなが大好きな嘉万を大切にしていきたいです。



ありがとう木間小学校



萩市立木間小学校

六年 山野 悠稀

僕が通う木間小学校は、萩市の南に位置する緑豊かな山あいにある学校です。明治三十三年に山田村立木間尋常小学校として開校し、昭和二十二年に萩市立木間小学校となりました。今年の小学生は僕一人で、中学生は兄を含めて三人です。

学校が閉校となると知って、六年間過ごした楽しかった思い出が頭の中でぐるぐるとよみがえりました。

毎年の運動会には、木間地区や地区外からたくさんの方が来られ、運動場が人でいっぱいになります。みんなが楽しい競技に出場します。僕たちは心一つにして、ダンスの演技を披露してきました。いつも割れんばかりの拍手と「元気が出たよ」「ありがとう」の言葉をいただき、うれしい気持ちでいっぱいになることができました。

野菜作りも忘れることができません。地域の野菜作り名人の方に教わりながら、先生と一緒に空き地を畑にするところからスタートし、なす、うり、白菜などの野菜をたくさん育てました。欠かさず水やりをし、取かくして地域の加工場に運ぶたびに「ありがとう」「すごく上手に育てたね」とほめられました。

授業は、どれも好きですが、特に社会科の歴史が楽しかったです。普段は、先生と一対一で勉強していますが、参観



日には地域の方も授業に参加してくださいました。たくさんの方の前で、自分の考えを発表するのは、とても気持ちよかったです。

僕は、同級生がいまいませんでしたが、いろいろな勉強をし、地域の人とふれあう活動ができて、とても楽しい六年間でした。

中学生になったら市内の中学に通うことができるので、「友達と一緒に勉強したり、スポーツしたりするのってすごく楽しいだろうなあ」と、今からワクワクしています。

ありがとう、我が母校



萩市立木間中学校

三年 堂園 聡仁

小学校に入学したときは、自分たちが最後の卒業生になるなんて思ってもいなかったもので、中学三年生になって閉校の話聞いたときは信じられませんでした。

先日、学校に長年保管してあったアルバムの写真を見たときに、木間小・中学校にとっても長い歴史があることを知りました。また、古い資料を見ると小規模の学校だけれど、卓球やソフトテニスなどの賞状をもらっていたことに驚きました。普段は、学校の歴史や伝統について、あまり意識したことはありませんでした。

しかし、小さな学校ながら、大規模校に負けずに頑張っておられた先輩方の足跡に感動を覚えました。

今まで、地域の方々にも私たちの学校のいろいろな活動を支えていただきました。田植えや稲刈り、豆腐作りや萩焼の制作など、授業以外のたくさんの方の活動を学べたことも、私たちの財産となっています。特に、活動の中で、「とてもよかったですよ」と、私たちの活動をほめていただき、地域の方々の優しさやあたたかさを感じる事ができました。私たちの学校の児童生徒数は少なかったけれど、他校ではできない貴重な体験を数多く積むことができました。また、お



互いのよさを理解して尊重し合い、みんなが兄弟のように助け合って過ごせたということも、我が校のよいところだと思います。

この三月で、我が校がいよいよ閉校となり、母校がなくなってしまうのは残念ですが、これからも地域の行事には積極的に参加し、故郷に貢献していきたいと思えます。

学校という存在はなくなりますが、これまで学び舎を巣立って行かれた諸先輩方、そして、最後の児童生徒となる私たちの心の中には、いつまでも木間小・中学校があります。さようなら、そしてありがとう、木間小・中学校！

ホームページのご活用を!!

山口県教育会

検索

又は URL: <http://www.ykoyoikuk.or.jp> で

平成29年4月にリニューアルしたホームページでしたが、おかげさまで多くの皆様にご活用いただきました。

来年度も、さらなる工夫と更新を行い、いっそう活用しやすいホームページの発信に取り組んでまいります。

教育会館の会議室、研修室をご利用の際には、こちらをご活用ください。「事業」のページからも入ることができます。

- ・研修室、会議室等の規模
- ・貸し出し施設、設備の内容
- ・利用料金
- ・利用申込方法と様式 等

平成28年度以降の「山口県教育」を月ごとに閲覧することができます。平成30年度からは、更新情報からもアクセスできます。

「山口県へき地教育振興会」の役員、県大会案内、参加申込書等をご確認いただけます。

主な掲載内容（抜粋）と諸様式のご利用について

【事業】のページ……山口県教育会の事業を7つの項目で、掲載しています。

- 「やまぐち教育の日・教育県民大会」「日本連合教育会研究大会」の大会要項
- 「やまぐち教育の日」の趣旨概要と協賛行事一覧
- 『金子みすゞ賞』童謡詩、「わたしの志」作文の募集要項及び入賞作品
「金子みすゞ賞」童謡詩の応募用紙は、募集要項からダウンロードできます。
- 「教育維新・青年教師の集い」開催要項 参加申込書は開催要項からダウンロードできます。
- 教育会が行う各種奨励事業の実施要項
各奨励事業の助成申請や報告等の様式は、実施要項からダウンロードできます。
- 「現職研修奨励事業」「地域活性化活動奨励事業」に係る助成団体一覧、報告書
各団体の報告書は助成団体一覧を開き、各項目をクリックしてください。

【出版・販売】のページ……山口県教育会が取り扱っている公簿や書籍等の販売についてご案内しています。「事業」のページからも入ることができます。

- 教育関係書籍 「高校生活への道しるべ」「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章」等
- 吉田松陰関係書籍 「松陰読本」「松陰先生に学ぶ」「維新の先覚 吉田松陰」「松陰と道」
- 給食関係公簿 「日誌」「物資受払簿」「衛生点検票」「検食簿」
他の出版物も含め、ご購入の際には、申込書をダウンロードしてご利用ください。

終身会員の紹介
未成まどか様（萩）
久賀武様（阿西）